

## 2025年度第5回生涯教育実務研修 受講後アンケート集計結果

「小児アレルギーの現状」

【講師】 済生会新潟病院 小児科 高見 暁 氏

【配信期間】 2025.10.16～10.22

受講申し込み者数 :131名

受講回数 :320回(延べ)

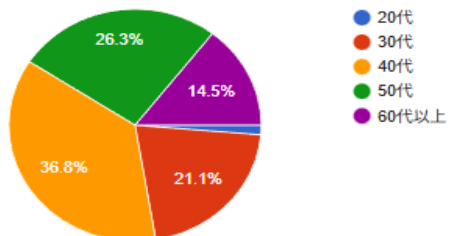
アンケート回答 :76名

### ①受講者年代 (人)

1.20代	1
2.30代	16
3.40代	28
4.50代	20
5.60代以上	11
合計	76

#### 年代

76 件の回答

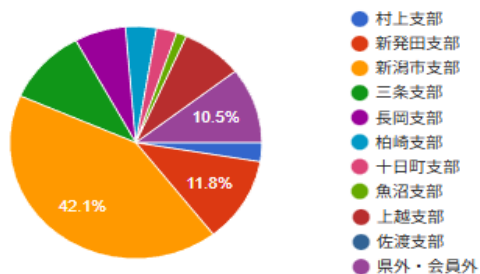


### ② 所属支部 (人)

1.村上	2
2.新発田	9
3.新潟	32
4.三条	8
5.長岡	5
6.柏崎	3
7.十日町	2
8.魚沼	1
9.上越	6
10.佐渡	0
11.県外・会員外	8
合計	76

#### 所属支部

76 件の回答

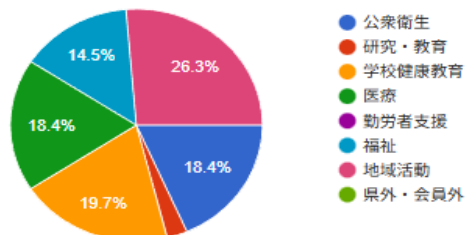


### ③所属職域事業部 (人)

1.公衆衛生	14
2.研究・教育	2
3.学校健康教育	15
4.医療	14
5.勤労者支援	0
6.福祉	11
7.地域活動	20
9.県外・会員外	0
合計	76

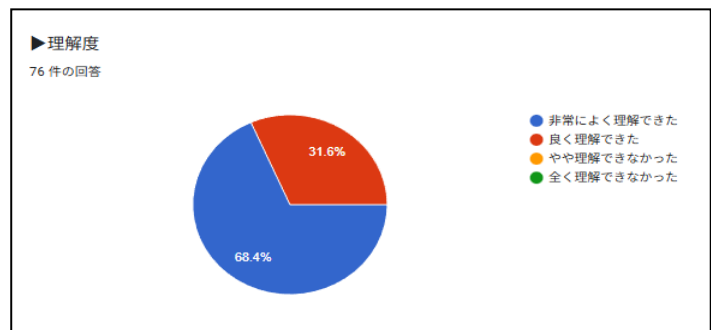
#### 職域

76 件の回答



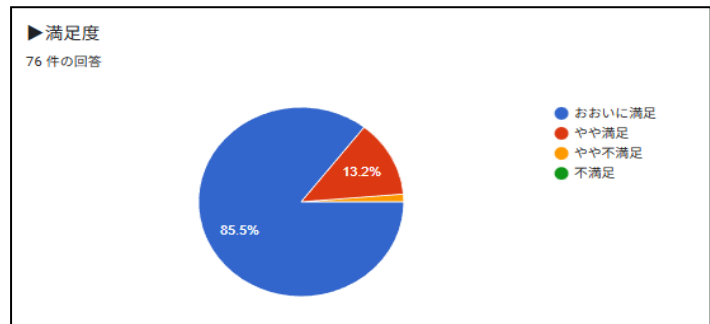
#### ④ 理解度 (人)

1.非常によく理解できた	52
2.良く理解できた	24
3.やや理解できなかった	0
4.全く理解できなかった	0
合計	76



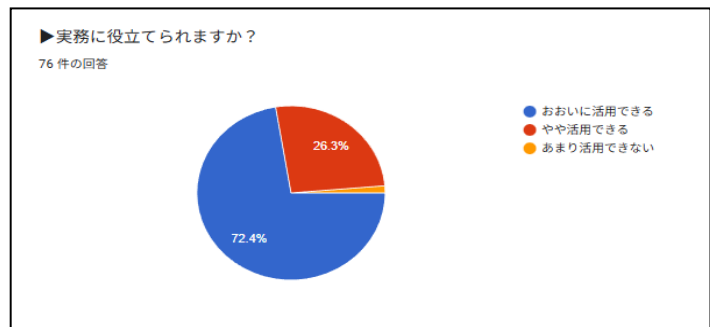
#### ⑤ 満足度 (人)

1.おおいに満足	65
2.やや満足	10
3.やや不満足	1
4.不満足	0
合計	76



#### ⑥ 実務に役立てられるか (人)

1.おおいに活用できる	55
2.やや活用できる	20
3.あまり活用できない	1
合計	76



#### ⑦ 小児アレルギーについて、さらに知りたい内容(要約)

- ・幼児期にアレルギー発症した場合、一般的に何歳頃から食物経口負荷試験を行うのが適切か。
- ・遅延型食物アレルギーについて、知識を深めたい。
- ・アレルギー児への栄養指導について事例など
- ・児とその家庭を支援するとき病院、家庭、保育園・行政の連携について、具体的な手法、事例等を知りたい。保護者面談や書面のやり取りだけで連携しているとは言い難く、家庭から過度な対応を求められ、双方の理解、合意形成が難しいケースがある。
- ・バナナについて、検査がバナナそのものとラテックスで陰性でも蕁麻疹症状がある場合、薬理活性物質以外にどんな原因が考えられるのか知りたい。
- ・離乳期・幼児期のナッツ類の進め方について

#### ⑧ 意見・感想(原文のまま)

##### ●よかった点

- ・具体的症例があり、大変わかり良かった。どこに事故が潜んでいるかわからない。
- ・解除にあたって何をどれくらいと具体的に示して下さい参考になった。
- ・わかりやすいお話と資料だった。
- ・わかりやすいお話で良かった。
- ・全体的にとってもわかりやすかった。最新情報やアレルギーの事例も大変参考になった。
- ・アレルギーに関する知識を現場目線でとてもわかりやすくお話いただいた。 はじめて知ることもありとても興味深かった。学んだ知識を現場で早速生かしたい。
- ・事前の質問に丁寧に答えていただきわかりやすかった。
- ・事前の質問に回答する内容とても良かった。
- ・質問への回答内容が具体的で業務に生かせる内容で、アレルゲン別の説明も大変参考になった。
- ・丁寧な解説とてもわかりやすくて良かった。
- ・新しい情報を大変勉強になった。
- ・食物アレルギーについて理解が深まった。仕事に役立つ内容だった。
- ・日々の業務にすぐに役立てられる内容でためになった。
- ・興味深かった。Q&Aや事例紹介等が入っていたことで、より理解を深めることができた。

- ・愛知県の栄養士です。地元の見慣れた表が出てきて、大変誇らしかった。恵まれた地域柄を活かさないといけない。
- ・食品ごとの特徴を詳細に説明されていた点や資料の情報がよかった。
- ・各食品のアレルゲンの特徴参考になった。丁寧な回答で分かりやすかった。
- ・最新の情報大変有意義だった。
- ・具体的な内容が多くとても参考になった。特に豆乳アレルギーについて理解が深まった。
- ・食物アレルギーには普段から対応しているが、自分の知識が古かったり不明確な点を確認することができた。  
特に、魚アレルギーについて理解を深めることができた。今後活かしていきたい。
- ・食べさせた方がアレルギー発症が少ないことがわかり良かった。
- ・ナッツ類のアレルギーについて知りたかったのでよかった。

#### ●感想

- ・とても丁寧な説明でアレルギーの仕組みを学ぶことができた。
- ・アレルギー増加の原因やクルミ増加の原因など、先生もしきりにおっしゃっていたようにまだ分からないことが多い分野なのと思った。これからより研究が進むことを望む。
- ・魚類のアレルゲン初めて知り驚いた。
- ・実務に役立つ研修企画だった。さらに受講期間は週末が2回含まれるとより参加しやすい。

#### ●職域別別感想

##### ○公衆衛生

- ・事例・アレルギー疾患一覧について特に業務の参考になった。

##### ○研究・教育

- ・小児アレルギーの現状や症状など基本的な内容から各アレルギー原因食品の詳細まで、非常にわかりやすくご説明いただき、理解が深まった。新潟におけるクルミアレルギー等まだまだ離乳食の分野も未知の領域であることを改めて認識した。また、複数の研究結果は非常に興味深かった。離乳食の指導には携わっていないが、授乳・離乳の支援ガイドの改定内容を知り、離乳食の分野さえもまだまだ発展途上なのだと認識でき、新潟市立園の対応も始めて知る機会になった。2012年の小6女児の症例は衝撃だった。

##### ○学校健康教育

- ・食物アレルギーは、日々の給食でとても意識しており、今回の研修でさらに注意したいと思った。
- ・質問に答えながらの解説もあり、とてもわかりやすく学べた。最近の業務では、アレルギー事故を起こさないための対応品目を削減するなどの仕組み作りに力を入れがちだったが、保護者に対して治療に関する最新の情報伝えたり医療機関を紹介するなども行っていかなければと感じた。
- ・アレルゲンの特徴や、最近増加傾向とを感じる豆乳についてもありがたい情報だった。
- ・大変分かりやすく、現場で活用しやすい知識や情報がたくさんでありがたかった。
- ・定期的に食物アレルギーの研修を受けることで知識の再確認ができた。高見先生の症例紹介が新しい学びだった。さらに念入りに配合表を確認しようと思った。
- ・血液検査の有効性のある・低いアレルゲン参考になった。保護者との面談時「血液検査で陽性が出ていないから…」とアレルギー対応をためらう方に対しこちらが知識をしっかりと持って安全に給食を提供できるようにしていきたい。

##### ○医療

- ・食物アレルギーは病院給食の現場でも悩む事の多い内容で、小児アレルギーへの対応は大変参考になった。
- ・実際の診断の方法の詳細勉強になった。大人の傾向も解説されていたので、入院時の聞き取りに活かしたい。
- ・現在の疾患と治療の考え方、アレルゲンの特徴、注意点など大変勉強になった。個別対応の難しさを感じることも多いが、少しでも自信をもって対応できるよう今回の講義を活用したい。

##### ○福祉

- ・高齢者施設に勤務。生活歴や病歴などわからない方も多く、食後の不調＝食中毒もしくはアレルギーを疑われることが多くあり、アレルギーについて学ぶことができ有意義だった。「80代でも発症」は衝撃だった。

##### ○地域活動

- ・大変分かりやすかった。適切な時期に食材を進められない保護者にしっかりとした知識を伝えたい。
- ・最近の食物アレルギーの傾向、情報を園の献立作成やアレルギー児の対応に役立てたい。
- ・アレルギーを持つお子様は多く子育て中の保護者にとって関心の高い。症例や受診について、興味深かった。
- ・自分の頭の中が整理された。ナッツ類についてはより学びたい。ナッツ類のように、授乳・離乳の支援ガイドに掲載されていない食品に関して、保護者にどのように助言していくのか、今後検討する必要があると思った。
- ・ひとつひとつ項目を丁寧にわかりやすくお話しくださり、非常にわかりやすかった。たまごボーロの質問について、回答に迷っていたので参考になった。増加傾向のアレルゲンは今後対応する機会があることを念頭に、常に新しい情報をキャッチ出来るようアンテナを張っていきたい。

#### ⑨今後、地域活動事業部生涯教育として取り上げてほしい研修

- ・離乳食
- ・小児肥満について
- ・発達障害の子どもと保護者の食支援について
- ・特定保健指導

- ・フレイル予防の栄養指導について
- ・高齢者の食物アレルギー
- ・認知症を防ぐ食べ物の最新知識について
- ・調理室の衛生管理
- ・コミュニケーション
- ・サプリメントについて
- ・食品成分表の基本、給食室衛生管理
- ・災害時の食の備えを推進するために地域活動で取り上げるための知識と技術について指導していただきたい。
- ・依存症や精神疾患についての食事との関係
- ・薬品と食材の食べ合わせ、薬品同士の組み合わせ注意など
- ・スポーツ栄養について
- ・生活に密着した内容
- ・仕事に役立てられる最新の情報
- ・栄養士の業務改善など
- ・生涯、栄養士として活動するために、どのような業務があるか。

#### ⑩講師への質問と回答

- ・口腔アレルギー症候群について質問です。花粉症であることから、果物類やきゅうりなどの野菜類を食べると、口腔内に痒みが出るという児童がいます。この場合の対応(完全除去がよいのか、痒み程度なら食べてもよいのか等)や、同じような事例、治療法などがあれば教えていただけるとありがたいです。

回答→ まずは口腔アレルギー症候群なのか、果物野菜に含まれる成分による過敏性の症状なのかの鑑別を行います。口腔アレルギー症候群であれば、症状の出る果物野菜とそれと構造が似た花粉の特異的IgE値を測定して陽性になればその可能性が高いと言えます。一方で特異的IgEが陽性にならないこともあり、それよりも実際の果肉など食品そのものを使用したスキンプリックテストという本人の皮膚を利用した検査の方が陽性になりやすいとも言われています。尚、これらの検査が陽性になることが診断の絶対条件ではありません。症状も、生では有り、加熱など加工品では無し、本人が感じるのみで見た目には異常無し、など不確定要素が多く、意外と確定診断が難しい場合もあります。複数回の摂取でも症状は口腔内のみの場合、突然全身症状に発展することはほぼありません。

学校給食での対応においては、全身症状も伴う場合は診断が確定もされやすいので除去、口腔内症状のみで更に加工されたものでは無症状、かつ本人が好みのものであれば、ご家族との相談の上、疑いとしてあえて除去しない例も実際あります。

治療方法は無く、耐性獲得も期待できません。

- ・公立学校の栄養教職員は、管理指導表をもとに食物アレルギー対応を行います。C原因食物の除去根拠(①明らかな既往 ②食物傾向負荷試験陽性 ③IgE抗体等検査結果陽性 ④未摂取)が医師より示されます。これについて、一つの食物に対し、2個以上の根拠がなければならないと聞きましたが、本当ですか？

回答→ 2個以上の根拠がなければならないと聞いたことは無く、1個のみ記入している例もあります。

消化管アレルギーの典型的な発症経過が複数回あれば、負荷試験を行わず診断可能で、もともとそのタイプは特異的IgE陰性が典型的ですので、この場合は①のみ記入しています。

- ・過去に小児肥満への栄養指導の際に「別な病院でコバルトアレルギーと診断を受けた。」と児童の親から相談を受けた事がありました。診断医からコバルトを多く含む食品の制限を指示され、豆類なども使用を制限された事から調味料も何を使用したらいいかかわないと話がありました。米や小麦粉は摂取可と言われていた事から、大豆を使用しない大豆アレルギー向けの米や小麦を使用したみそやしょうゆなどの紹介を行いました。調味料の制限も必要であったのかまでは不明でした。アレルギーの診断は当院でされた訳ではなかったため具体的な医師の指示もわからず、金属アレルギーに対する食事指導の情報も少なく、あまり有効なアドバイスもできなかったという経験があります。微量金属成分へのアレルギー対応についてアドバイスや参考となる資料などがありませんでしたら、ご教示頂けると幸いです。

回答→ 金属アレルギーは小児でもあるとは思いますが、小児でそれと診断したことは1回もなく、少なくとも一般的な小児アレルギー疾患ではありません。知識や経験が無いため明解なお答えできず申し訳ありませんが、学術的に適正な資料としては「金属アレルギー診療と管理の手引き2025」があり、誰でも閲覧可能です。それによりますと、やはり成人例が多く小児では稀であり、診断方法も難しそうです。

- ・小児ではないのですが、魚の身の色はアレルギーの強さに関係ないとのことでしたが、よく青魚や鯖アレルギーと患者さんに言われるのですが、ヒスタミン中毒とアレルギーと違うという認識でよろしかったでしょうか？そうすると、給食のアレルギー除去にはあたらないのでしょうか？現在は患者さんに言われたまま除去をしている状態です。

回答→ 食物アレルギーでは魚のタンパク質に対して異常な免疫反応が起きることで食べる度に症状が出現します。一方、ヒスタミン中毒では魚の身に貯めこまれた多量のヒスタミンを食べることで症状が起こるため、同じ魚でもヒスタミンが貯めこまれていなければ症状は起きません。この判別をするのが医師の仕事です。

- ・治療法として、食べられる量を家庭で繰り返し食べることが主流になっていますが、家で朝食べて保育園に登園しても、保育園では経過を見ることは難しく、求められても対応できかねます。中には、家で増量して大丈夫か否かを試すことをしている方もいらっしゃいます。家では保護者の責任の下で食べることを原則として、保育園に責任を課することがないような仕組みにできないものなのでしょうか。（ガイドライン上にその旨の記載があるとよいのですが…）

回答→ 鶏卵アレルギーなどで自宅でアレルゲンを摂取する場合、基本的には自宅でのその増量は指導していません。増量しても大丈夫かは負荷試験などで医師が確認しています。摂取可能な量が判明した場合は何時に食べても問題がないので、食べる時間の指示はしていません。その子にとってある食物を初めて食べる場合は登園前などその後の経過観察が出来なくなる時間帯は止めるように指導しています。

- ・中学校入学前のアレルギー面談で（給食対応前提のもの）、アレルゲンを最後に食べたのが幼児の頃と書類に書かれていることがあります。その時の症状は皮膚症状や喉が痒いなどで、卵乳小麦ではない食材（魚卵やえび、ほたてなど）です。そういう方に栄養教諭から、成長したので家で試しに少量食べてみたらいかがですか、などと勧めてみて良いもののでしょうか。小学校でも毎年かかりつけ医にかかって管理指導表をもらっていたはずですが、その間に一度も食べてみるという指導や機会がなかったり、経口負荷試験の紹介がなかったりすることが不思議に思うことがあります。でもいきなり家で食べて酷い症状が出たら責任も取れないし…と及び腰になってしまいます。どのように「試しに食べてみる」に繋いだらよろしいでしょうか。

回答→ アレルゲンの摂取に関しては、医師が責任を持って指導しています。園や学校の先生方が上記のように思った場合でも摂取をお勧めいただくことは不要です。あらためて主治医と相談することをお勧めいただくのは問題ありません。それでも対応が不十分な様子があれば、行政の担当者にご相談いただくのも良いと思います。

- ・口腔アレルギー症候群と果物由来のアレルギーは同じもののでしょうか。別のものなのでしょうか。

回答→ 果物がアレルゲンの場合において、果物アレルギーの症状の起こり方の一つのタイプとして口腔アレルギー症候群があります。例えばある果物を食べてすぐに全身性に蕁麻疹が起こるのは他のアレルゲンでもよくある即時型というタイプであり、口腔アレルギー症候群にはなりません。

- ・子どもの頃完解したアレルギーは成人してから再発してしまう事がありますか？

回答→ 基本的には耐性獲得後の成人期での再発はありません。偶然小児期にアレルゲンであった食物が成人期に何等かの新たなきっかけ（感作）で再びアレルゲンとなる可能性はありますが、かなり稀だと考えます。

- ・成人の場合食物負荷試験を実施して下さる医療機関はあるのでしょうか？またどちらへ問い合わせたらよろしいのでしょうか？

回答→ 一般的には成人の食物経口負荷試験を実施している県内の医療機関はほぼ無いと思われます。「新潟県 アレルギー協議会」で検索すると新潟県のホームページ内の「新潟県のアレルギー疾患対策について」のページに辿り着きますが、その中の「県内のアレルギー対応医療機関一覧」に県内ほぼ全ての医療機関について食物経口負荷試験を実施しているかが確認できます。県が実際に直接調査しているので信頼できる情報です。そのほとんど小児科ですが、負荷試験をアレルギー科として実施している施設にご相談いただくか、小児科として実施している施設にまず相談してみてもよいかと思います。成人の負荷試験はできなくても、相談等何らかのアドバイスはできるかもしれません。